

講話：ウパニシャッド（これまでの、カタ・ウパニシャッドのあらすじ）

現在（第21回以降）、ウパニシャッドの中でも特に有名な、『カタ・ウパニシャッド』の物語を学んでいます。

主人公は、ナチケータスという男の子です。ナチケータスは、靈性の求道者にとって必要な、「**シュラッター**」という性質、

- ・ 神さま、聖典、先生、自分のことを信じて尊敬している。
- ・ 謙虚。
- ・ 誠実。
- ・ 熱心。
- ・ 真理への憧れと、安定した決意を持っている。
- ・ 瞑想や識別など、靈性の修行を実践している。

を、すべて備えていました。

ある日、ナチケータスのお父さんは、果報を願って、『一切の所有物を捧げる』という名の儀式を行いました。その名のとおり、儀式には、自分が所有しているすべての富を、儀式に参加する祭司とブラーミンにお布施として捧げることが条件でした。お供えの中に役に立たなくなった雌牛などがいたので、信心深いナチケータスは、「そんなお供えでもいいのかな」と心配になりました。また、自分もお父さんの所有物だから、お供えにされるかもしれないと思って「私を誰に捧げるのですか」と尋ねました。お父さんがそれに対して何も答えないので、ナチケータスは同じ質問を何度も繰り返しました。すると、お父さんはとうとう怒ってしまい、「お前を死神にくれてやる！」と言いました。そこで、ナチケータスは、真理の実践者として、お父さんの言葉に従い、死神（ヤマ）のもとへ旅立つことになりました。

あいにく、そのとき、ヤマは家を留守にしていました。ナチケータスは、食わず、飲まず、休まず、ヤマの帰りを3日間待ちました。インドでは、来客（特にブラーミンのお客さま）を突然ではあっても、神さまとして丁重にもてなさなければ、その家に災いが起こるといふ教えがあります。帰宅したヤマは、「お前は、私の帰りを3日間待ってくれたので、お前の願いを3つ叶えてあげよう。」と、ナチケータスに約束しました。

ナチケータスは、まず1つ目の願いとして、「お父さんが私の死で悲しまないようしてください。私を生き返らせてください。」と言い、この世に関する願いを叶えてもらいました。

次に、2つ目の願いとして、「天国は良いところだそうですね。私に、天国へ行くための儀式を教えてください」と言い、あの世に関する願いを叶えてもらいました。教えたことをナチケータスがすぐに覚えたので、ヤマは喜んで、ナチケータスに、宝石の首飾りを与え、天国に行くための火の儀式を教え、その火の儀式には、『ナーチケータ』という名前を付けてあげました。

そして、ナチケータスは、3つ目の願いとして、「**人は死ぬと、その人の存在の全てがなくなりますか？それとも何かが続きますか？真理について、教えてください**」とお願いしました。

1つ目と2つ目は、世俗的な願いでした。しかし、3つ目は、神々できえ理解することがむずかしい、真理についての質問です。そして、この3つ目が、カタ・ウパニシャッドのメイン・テーマです。

ヤマは、ナチケータスに真理を学ぶ準備ができているのかどうか、テストをしました。「この世での長生き、富、子孫、王国、それだけではなく、天国の美しい女性や音楽など、欲しいものをすべて上げよう。そのかわり、お前の3つ目の願いをあきらめなさい」と、世俗の楽しみで、ナチケータスを誘惑しました。しかしナチケータスは、その誘惑に負けず、「真理以外、私は何も欲しくありません」と、真理を求める気持ちが強いことを示しました。

ヤマはナチケータスに、真理について教えることにしました。まず、「この世には、真理につながる幸福の道と、世俗的な快樂の道があるので、前者を選ばなければいけない。無知な人（永遠なものより一時的なものを選ぶ人）は、生死を繰り返すのだ。」と説きました。ここまでの、これまでの物語のあらすじです。